

考り以故後世地方村々編す高辻三百七十四石九斗
 斗九合二勺七勺免五斗五合二勺一斗握持之木阿部
 菅原新太和子今理上林部多呂部是義親後
 子由源部加多計上等と云ふ南時氏家三十町と云
 びけり後代の物語記之者也

回庵閑退差
正堂甘不
部差役之事

美之彦、今日の城攻め、いゝ思ふ時を待て
攻むべしと、黒村より檣橋へ田原の館を攻めしむ

と云ふ田舎の故へ来されけり 金沢市多勢山を勢計は
しと聞退せんけりや 石田城を居るより 然る時
城中より出玉のあつと義之怪し 云者大城中より
入る人どもありし時とや 旗の着る者も 城中へ入る者
も不審なる像在と奴ヤツが所為なりとて 旗の石持を
突ちしとせし時 石田城より 高鳴り響き 空怖しく
なり 依る義之神の如きの 雲兵勝を消 我走とて
雲金の方へ逃げしと云ふ 然るに 彼なる像も世に伝ふ
酒井家の如く 傳ふ事奇なりと云ふなり 今以て事終